

バスの乗り方教室検討チーム

学の世界入門宇佐美先生クラス

岩手県立大学総合政策学部 1年

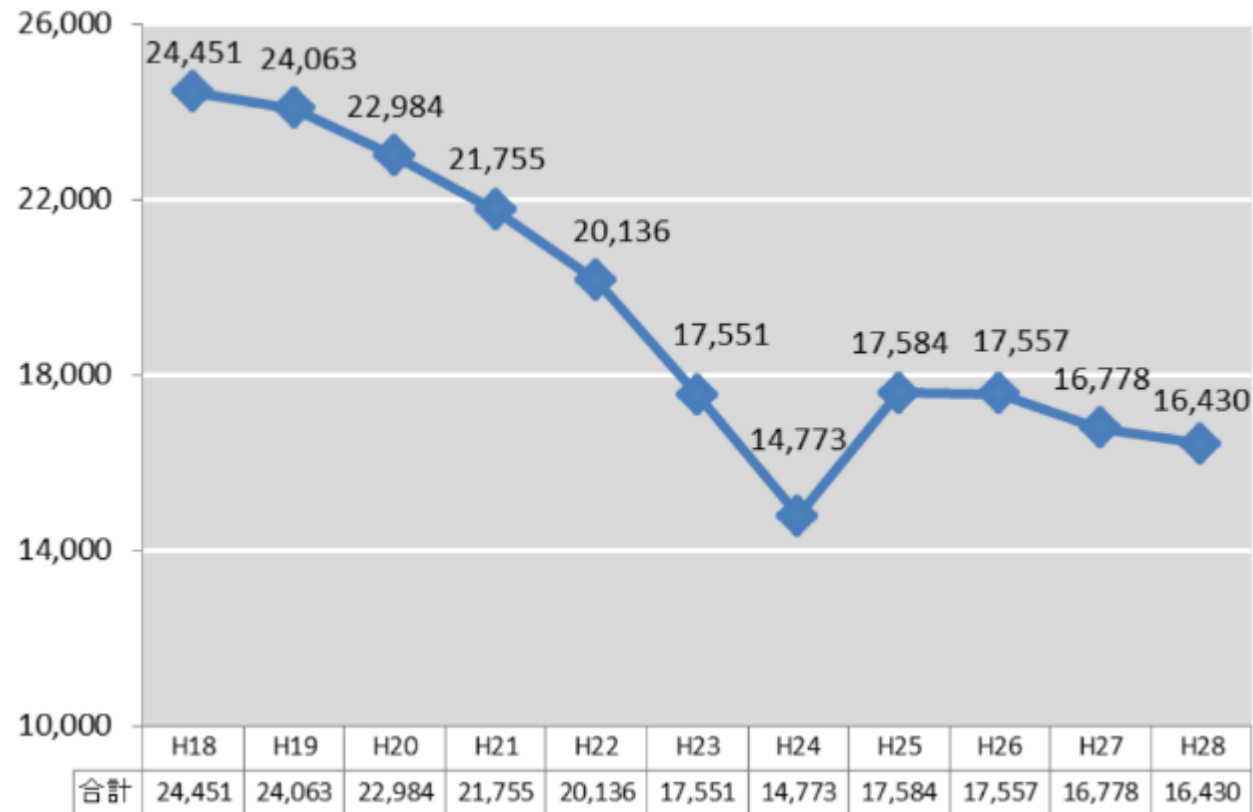
市川皓登 太田圭香 尾形陽人 前川育緒佳

私たちの企画について

- ▶ 前年度の学の世界入門履修生が企画・実行した「たきざわバスまつり」について、来年度も実行できるように強化させる。



路線バス利用者数の推移



https://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/059/097/0925/siryou7.pdf

企画に至った経緯

滝沢ではバスの利用者が**減少傾向**にある



そもそもバスの乗り方に**不安**を感じるのではないか



『**バスまつり**』を通じてバスについて知る



公共交通の**利用を促進**をさせ、
路線**バス利用者の増加**を狙う

バスの魅力



環境に優しい



交通事故が少ない



バスの利用は健康的

目的

▶ イベントのねらい

- バスの基本情報（どんな乗り物か、構造など）を知ってもらう。
- バスの乗り方を知ってもらう。
- （自家用車とは違った）バスの良いところを理解してもらう。

⇒バスを積極的に利用してもらう。

目的

- ▶ イベント対象
未就学児～小学校高学年とその親



目的



▶ 対象設定の理由

未就学児・・・小さなころからバスに慣れ親しんでもらいたいから。

小学校高学年・・・中学校へ進学する際に公共交通機関を利用しての通学が考えられ、この機会にバスの乗り方等を理解してもらいたいから。

目的



▶ 対象設定の理由

親・・・“子供の付き添い”ではなく、大人にもバスに興味をもってほしいから。

さらに・・・

親子で参加してもらおうことで、家族での外出の際に公共交通機関を利用してもらう**きっかけ**を作りたい。

前回から活かすこと

- ▶ バスの乗り方教室が好評。全4回の教室が毎回満員だった。

⇒回数を増やすorバスを増やす

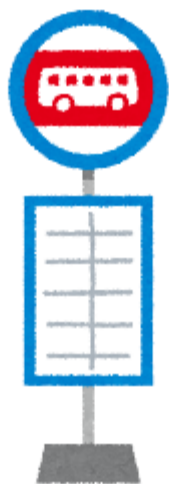
- ▶ 参加者の対象を小学生にしていたが、実際に多く訪れたのは未就学児とその親だった。

⇒小学生も来てもらえるような企画を行う

前回から活かすこと

- ▶ 来場者にアンケートをとった結果、バスで来た人は約1割で、多くが自家用車での来場だった。

⇒バスで来た人に特典を付けることを強調し、バスでの来場者を増やす



バスまつり



場所

前回と同様ビックルーフたきざわを使用したいと考えている。



駐車場400台完備。

防災広場だけでなく、
ホールも使用する予定。

グッズ販売

ちやぐぽんグッズやバスカードの販売を行いたい。
また、新たなデザインの缶バッジも製作したい。



<https://morioka.people.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/20180618sinsyohin-1024x768.jpg>

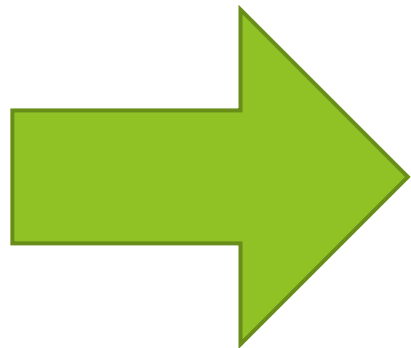
▶ 交通ICカードサンプルの作成

ICカードの設備投資を見越した説明会を開催。
会場で、写真を撮影し、その場でカードを
作ることが可能。



※イメージ





思い出に残るものに！

バスの乗り方教室

バスの乗り方の手順説明に加えて・・・



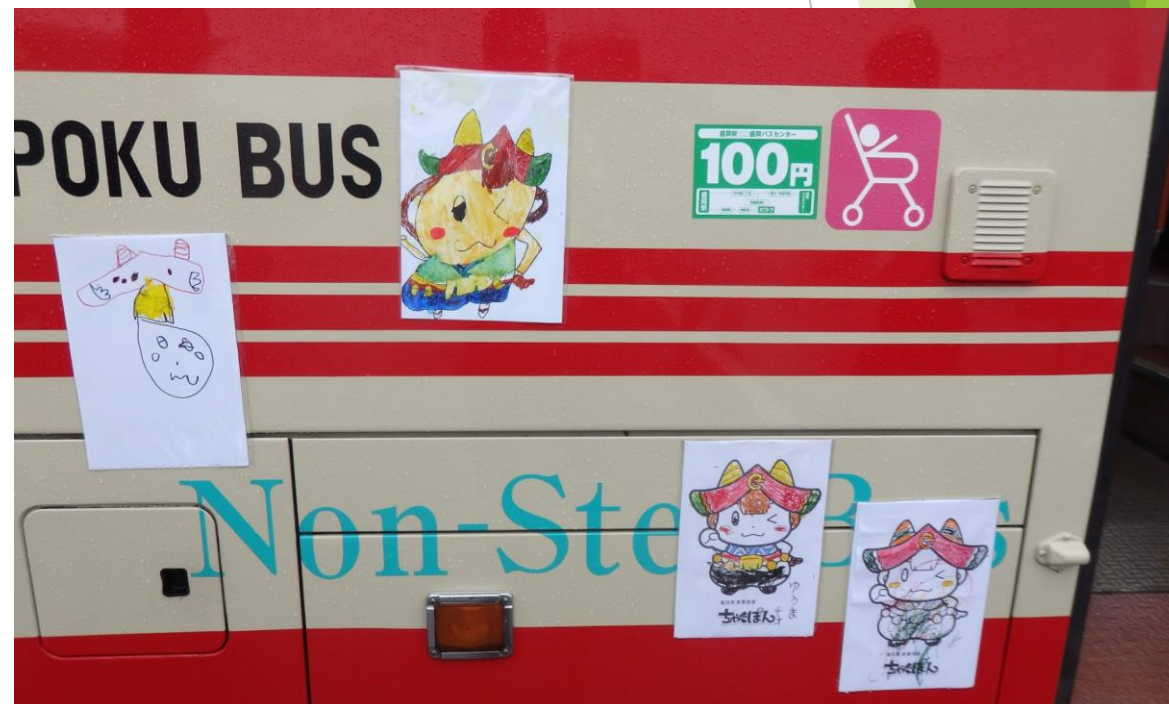
バス博士



実際の道路を走行

バスに落書き

- ▶ 車外 = マグネット
車内 = 紙
- ▶ バスに興味を持ってもらう



バス車両清掃体験



- ▶ バスの車体または車内を掃除する
- ▶ 普段体験することのない特別感を味わうことができる
- ▶ 例) 乗り方教室で使用したバスの清掃体験
⇒ 回ごとに行えば運営側の手間も省けるのでは？

バスとの綱引き

- ▶ バスと参加者として綱引きをする
- ▶ 直接バスの利用促進に関わる企画ではないが、目的としてはバスのスケールの大きさを知ってもらう



バスクイズ

- ▶ 乗り方教室及びバス博士と同時進行で行う
- ▶ クイズの内容としては、乗り方教室を始めとする各ブースに参加することで得られる知識の中で答えられるようなものとする
- ▶ クイズはこちらから配布
- ▶ 正解するとちゃぐぽんバッチがもらえる



LED式行き先表示器で記念撮影

- ▶ 岩手県交通様に協力していただき、行き先表示を好きな言葉に変えて、記念写真を撮影できるコーナーを作る



読み聞かせ会

未就学児から小学校低学年を対象とする
雨天により外で行う企画ができなかった
場合に開催予定



Ex, 「もしもシリーズ」

もしも桃太郎がバスで鬼ヶ島に行ったら

バスの運転体験

- ▶ バスの運転手不足が深刻
- ▶ 実際に運転するのではなく、
運転シミュレーション
- ▶ バスの仕組みを知ってもらう



その他

- ▶ バスだけでなくトラックを用いて比較
(死角体験 etc...)
- ▶ トラック及び最新鋭バスの展示



今後の展望

- ▶ 各ブースの内容決定
- ▶ 外部企業との連携を取る（バスの清掃体験など）
- ▶ グッズ作成

⇒実現可能な企画を厳選し、さらに具体化させる

ご清聴ありがとうございました。